

みせん

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

第52号

発行日
平成25年 6月 1日

◇ 目 次 ◇

- | | | | |
|----|------------------|----|------------------|
| P2 | H25 年度 PV 総会 | P6 | 小なきり浜植物観察・海岸清掃 |
| P3 | H24 年度 PV 活動記録 | | 入浜定点観察① |
| P4 | コバンモチ金網保全・生育状況調査 | P7 | 岩船岳清掃登山 |
| | 廿日市市民活動センターまつり | P8 | 宮島二流記（その15） |
| P5 | 公募観察会（室浜コース） | P9 | 鷹ノ巣高砲台跡の清掃・整備 |
| | 県立図書館へ資料寄贈 | | 6月の花 カギカズラ |
| | 自主観察会⑥ | | ‘12 秋～冬の活動での雑詠十句 |



“ネイチャー クラフト”

宮島は海に囲まれているにもかかわらず、海辺の活動が少なく、清掃活動くらいですが、もっと海に親しんで欲しいと思います。

浜辺には海藻があり、この海藻を貼って遊ぶのも面白いですし、いろんな貝が落ちていますから、貝でこんなクラフトを作ってみるのも楽しいです。

さて、干潟観察会の6月8日にはどんな発見があるでしょう。

（文・写真：小方 嗣彬）

平成 25 年度 宮島地区パークボランティアの会総会

PV の会の平成 25 年度定期総会は、春の嵐のため当初予定を 1 週間遅らせ、4 月 13 日(土) 杉之浦公民館に於いて開催された。出席会員 34 名 委任状提出者 11 名(会員総数 54 名)
(出席者) 足立 岩崎 大西 小方ペア 小川 奥田 恩田 金山 川崎 河村 菊村 北野
黒木 小林ペア 坂本 佐渡 佐藤(佐) 佐藤(庸) 島 末原 中道 野呂田 平田(広)
佛崎 舛田 松尾 宮本 三次 村上 横路 吉崎 呼坂

(環境省) 榑自然保護官 柴原自然保護官

1. 総会の開会(進行役 岩崎副会長)

定刻 10 時に開会、配布資料の確認、出席者全員の自己紹介、過半数の出席・委任状のため総会の成立を確認

2. 開会挨拶

● 環境省・榑自然保護官 挨拶

昨年度の宮島は、ラムサール条約湿地登録、観光客 400 万人突破、弥山登山者年間約 20 万人、弥山展望台のリニューアル開始など注目を浴びている。PV 会員の益々の活躍を期待する。

● 環境省・柴原自然保護官 挨拶

広島に着任して 1 年が経過した。八幡湿原や榑野(ふしの)川河口域の自然再生事業のニュースレター紹介。三陸復興国立公園創設の紹介。

● 村上会長 挨拶

地元宮島で永年 PV 活動을続けておられた井上軍さんが先日ご逝去された。ご冥福をお祈りしたい。本会の活動も順風満帆で進んでいるが、「好事魔多し」ともいう。緊張感を持って活動しよう。また、本会の活動について外部からの評価も高まる一方で、これを快く思わない人もいる。PV 帽子やユニフォーム(青ベスト)を着用して PV が活動中であることを明確にし、自信を持って行動しよ

う。各種行事も無事故で推移してきた。今後とも安全には十分留意していきたい。

3. 総会議事(議長 村上会長)

幹事会原案のとおり、次の 4 議案につき報告・審議がなされ、異議なく承認された。

● 平成 24 年度活動状況について

● 平成 24 年度決算について

足立監査員から適正との監査報告

● 平成 25 年度活動計画(案)について 会長・各部会長から説明。

● 平成 25 年度予算(案)について 補足説明:

・入浜定点観測は今年度で区切りをつける。各グループで結果をまとめ、12 月の研修会で発表する。(会長)

・今年度の研修交流会は、日帰りとし、行先は「大三島」とした。多数の参加をお願いする。(舛田)

・当会の活動状況を PR するパンフレットを作成するので、ご協力をお願いしたい。(平田(広))

4. 会員名簿

最新の会員名簿を配布する。退会者があったが、会員番号は不変とする。(足立)

5. 当面の行事予定の説明:(小林・末原)

6. 総会終了:11 時 45 分 (川崎 昭寿 記)



杉之浦公民館前にて

H24 年度 PV 活動記録

(平成 24 年 4 月～25 年 3 月)



	開催日	行 事	場 所	参加人数	
会 合	4/7(土)	平成 24 年度定期総会	杉之浦公民館	48	
	12/1(土)	臨時総会	宮島市民センター	36	役員改選
観 察 部 会	6/2(土)	公募観察会①	大聖院コース	23	
	H25/3/23(土)	公募観察会③	室浜コース	23	
	4/7(土)	自主観察会①	小なきり浜周辺	31	植物・生物調査
	5/26(土)	自主観察会②	大聖院コース	15	兼公募①下見
	9/23(日)	自主観察会③	入浜	19	定点観察⑥兼下見
	H25/1/12(土)	自主観察会⑤	弥山	18	新春登山
	H25/3/16(土)	自主観察会⑥	室浜コース	16	兼公募③下見
	H25/2/16(土)	自主観察会(OP)	八幡川	30	冬鳥観察
	4/7(土)	入浜定点観察①	入浜	12	総会後
	5/12(土)	入浜定点観察②	入浜	15	
	7/21(土)	入浜定点観察④	入浜	20	
	8/18(土)	入浜定点観察⑤	入浜	17	兼下見
	10/13(土)	入浜定点観察⑦	入浜	17	
	H25/2/9(土)	入浜定点観察⑧	入浜	19	
環 境 整 備 部 会	4/7(土)	宮島市街地周辺美化	小なきり浜	31	
	5/19(土)	鷹ノ巣高砲台跡整備・清掃	鷹ノ巣	13	
	8/2(木)	厳島神社前海浜清掃	厳島神社前	15	
	8/5(日)	自然公園クリーンデー	包が浦、杉之浦他	20	
	10/27(土)	紅葉谷公園歩道補修・清掃	紅葉谷公園	24	兼さくら・もみじ の会保全協力
	11/3(土)	樹木銘板維持管理	うぐいす歩道、もみじ歩 道、あせび歩道	20	
	12/8(土)	弥山登山道補修・清掃	獅子岩駅～弥山 ～大聖院ルート	17	
	H25/2/23(土)	コバンモチ樹木ネット保全確認	広大自然植物実験所	15	
	4/7,5/12,7/21,8/18,9/23,10/13,H25/2/19 (定点観察日と同じ) 入浜池汽水化維持管理および森林保全整備			延 119	
そ の 他	6/10(日)	宮島クリーン作戦参加	焼山浦	19	海岸漂着ごみ回収
	6/30(土)	自主研修会	広大自然植物実験所	27	植物学習会
	7/26(木)	呉大和分団子供学習会協力	大元公園	14	
	8/5(日)	自主研修会	宮島市民センター	23	ラムサール条約学習会
	10/14(日)	はつかいち環境フェスタ出展	廿日市スポーツセンター	9	活動紹介
	11/10～11(土日)	中国地区 PV 交流会	山陰海岸ジオパークセンター	9	自然公園財団
	11/22～23(木金)	RCC エコメッセ出展	広島産業会館	20	活動紹介
	11/24(土)	観音台公民館活動協力	極楽寺山	11	極楽寺山探勝協力
	H25/2/16(土)	自然公園指導員合同研修会	広島市民交流プラザ	35	IP(インタープリテーション)

注：行事名の付番の欠番は雨天等で中止した行事

コバンモチ金網 保全・生育状況調査

日時：2月23日（土）9:00～15:00

天候：晴

参加者：岩崎 小方(嗣) 川崎 黒木 小林ペア
小林(寛) 佐伯 末原 平田(広) 平野 宮本
三次 山崎 横路 (広大 向井さん 内田さん)

コバンモチは、室浜の広島大学宮島植物実験所より西側の内侍岩～大江東付近に自生していますが、南方系の植物で宮島が北限の貴重植物です。この約85本の樹木をシカの被害から防止するために取付けた樹木ネットの保全・生育状況調査を広大と協同で行いました。

この日、広大植物実験所までは、車を利用した一部の人を除いて、広大の向井さんの船で大鳥居を潜って移動しました。そろりそろりと真下から見た鳥居は、とにかく大迫力で神聖な気分でした。向井さんの粋な計らいでした。大鳥居の額は、本殿側/海側で表記が違うとは聞いていましたが、自分の目で確認したのはこの日が初めて・・

ちなみに大鳥居の額の表記は、本殿側：伊都岐島神社（万葉仮名）、海側：厳島神社でした。

拝殿前には、白無垢の花嫁さんが多くの方々に祝福され、ちょこっと幸せのおすそ分けを頂きました。

天気も最高～～、小春日和でのどかでした。

ところが今日の作業は、のほほ～～とすまされるものではなく、コバンモチへの接近は障害物競技のようでした。歩行帯から下は道無き道を進む感じで、上はコシダ群生に行く手を阻まれ藪漕ぎでした。今、話題の「マダニにかまれたらどうしよう」なんて甘っちょろい考えではこの任務は遂行できません。

かなり上方部は草刈り機の出番となり、調査の助けとなりました。（2010年の“シダに阻まれ調査不能”の報告が今回に生かされたようです。）シダが生い茂ると日当たりが悪くなり新しい命が芽生えない。逆にシダを刈ると鹿が入り易くなり新芽を食べてしまう。シダ刈が良いとも限らず継続調査が必要とのことでした。

また、コバンモチはあちこちに点在しており、調査する側としては「集合して欲しいな」と思いますが、隣立するとどちらかが枯れて

しまうそうで、人間同様適度な距離間が良いようです。

全体的に生育状況は良好なようで、番号札が樹皮に食い込んだり、樹木ネットがはち切れんばかりに生育している個体も散見されました。食い込んだ札はできるだけ取り除いて新しい札を取り付け、窮屈なネットはLLサイズへとメンテしました。



最後に注意点を2点：

- ①歩行帯から法面を超えて調査に行き来しますが、法面の際もシダで覆われているので足元の見極めを間違えると、足場がなくなり落下の可能性があります。
- ②No. 57 & 58 の樹木は、アクセスが困難なため、安全を考え調査しない方が良い。

下記に成長著しい個体の記録を記しておきます。

順位	約10年間の成長度合い					
	ウエスト部門(cm)			身長部門(m)		
	樹木No.	変化	増加量	樹木No.	変化	増加量
1	40	135→170	+35	45	5→9.8	+4.8
2	19	66→97	+31	78	2→5.8	+3.8
3	72	16→47	+31	66	4.7→8	+3.3
4	34	116→142	+26	77	2.5→5.8	+3.3
5	28	77→100	+23	73	6→9	+3.0

(小林 寛致)

廿日市市民活動センターまつり

平成25年3月3日（日）廿日市市の市民活動センターにて市内の各種市民活動グループの活動発表会があり、当会からもポスター1枚を展示しました。

公 募 観 察 会

室 浜 コー ス

日時：3月23日（土）10:00～15:30

天候：晴

参加者：岩崎 大西 小方ペア 川崎 北野 黒木
小林ペア 小林(寛) 坂本 佐渡 佐藤(佐)
佐藤(庸) 島 中道 平田(攻) 舩田 村上
山崎 横路 呼坂 六重部 榊自然保護官
大高下 AR 公募参加者 43 名

週間天気予報では大丈夫かなあっていう予報で心配していましたが、暖かくて気持ちのいいお天気の中で開催されました。80名の応募の中で抽選によって50名が選ばれましたが、キャンセルもあって43名の公募参加者が5班に分かれて室浜の広大実験所までを散策しました。今日一番の見どころである「江の浦のヤマザクラ」は見事に満開です。上から見て、下から見て堪能できました。



満開のヤマザクラ

これだけで本日の目的は達成されました。

散策する道の両側にはたくさんのヤブツバキが咲いていました。アセビやシキミも満開でした。イヌガシやタイミンタチバナなどの花やつぼみもたくさん見ることができました。小学3年生の子供さんも熱心に観察していました。

室浜の海岸に出て昼食



大盛況!! 公募観察会

をとり、午後は室浜砲台跡で中道講師による楽しい解説があつて、再び、大元公園に全員事故もなく戻ることができました。

晴天に恵まれ、楽しい一日を過ごすことができました。これでまた「宮島大好き人間」が増えたことでしょう。

(小方 嗣彬)

県立図書館へ資料寄贈

平成25年2月13日、広島県立図書館より当会の作成した「宮島弥山原始林の植物(改訂版)」を寄贈して欲しいとの依頼があり提供しました。



県立図書館は、広島県や瀬戸内海に関する資料を収集し、調査研

究に役立て、県民の利用と後世への伝承を図ろうとしています。

自主観察会⑥

日時：3月16日（土）10:00～15:00

天候：晴

参加者：川崎 北野 黒木 小林ペア 坂本
佐藤(庸) 末原 兎谷 中道 野呂田 村上 山崎
横路 呼坂 六重部 大高下 AR

本観察会は、3月23日の公募観察会の下見も兼ねて、大元公園から室浜砲台跡まで歩きました。路肩の崩れた箇所が1カ所あった他は問題なく当日のヤマザクラの開花具合と天候を気にしながらの行事でした。

小なきり浜 植物観察・海岸清掃

日時：平成 25 年 4 月 13 日 12:40~13:30

天候：晴

参加者：岩崎 小方ペア 恩田 川崎 河村 菊村
北野 黒木 佐藤(佐) 佐藤(庸) 末原 野呂田
平田(広) 佛崎 舩田 松尾 村上 吉崎 呼坂
榊自然保護官 柴原自然保護官

○岬から見るザイフリボクの白と緑、コバノミツバツツジのピンク、青い空と海とのコントラストが実に見事でした。

(北野 孝幸)



ザイフリボク



コバノミツバツツジ

○雨のため一週間遅れの行事になりましたが、この時期の季節の移り変わりは早く、例年とは違う花や芽吹きを見ることができました。小なきり浜の出入り口にあるウラギンツルグミはちょうど食べ頃をむかえ、ハンゲショウは水辺一面に芽吹きが見られました。どんどん変わる力強い春の勢いを感じました。

(小方 嗣彬)

○海岸清掃では例年通りカキ殻パイプや PET ボトルなど 85kg のゴミを収集しました。

(末原 義秋)

入浜定点観察①

日時：平成 25 年 4 月 13 日 13:00~14:00

参加者：小川 小林ペア 中道 横路

島の南側、やや奥まった場所にある入浜は、地理的にも癒しの場所ですが、定期的に観察すると毎回何かしらの発見と驚きがあり、個人的には自然の力を感じ元気を分けてもらえる場所でもあります。

さて、今回の最大の発見は、小林さんが A 地点付近の底をサデ網でさらうと、3mm のヒメタニシらしき巻貝がいたことです。トンボの成虫とヤゴは見つけれませんでした。



再び崩れた土嚢

また、水路の土のうが崩れて流出水がせき止められていたため、池の水位が上昇し、水質的には水路整備前に近い状態が再現されていたのではないのでしょうか。いつもは埋め立てられたゴミの影響で汚い E 地点が、水位の上昇に伴い、ゴミが隠されてきれいに見えました。土のうが崩れるのはイノシシが虫を探すためではないかという意見もあります。

(水路の土のうを除き、水位を下げました。)

【 水質記録 】

調査時刻 13~14 時、気温 13℃、満潮 17 時 5 分、水位：B 地点で+3cm
山から池への水の流入はありませんでしたが、水路の水は流れ出ていました。C', D 地点では緑色の藻が多く見られました。

地点		A	B	C'	D	F
塩分	%	0.07	0.07	0.00	0.00	0.06
COD	mg/L	10	10	10	10	10

(小川 加代)

岩 船 岳 清 掃 登 山

—自然の声を聞いた登山—

日 時 ; 4 月 20 日 (土) 8 : 00 ~ 14 : 40

参加者 ; 岩崎 北野 小林(寛) 佐藤(佐) 末原
錦織 野呂田 宮本 山崎 横路 呼坂

昼過ぎから雨という天気予報を気にしつつ、予定通り 8 時に宮島口桟橋に集合。岩船岳の登山口がある「あての木浦」までは、チャーター船で約 50 分の船旅を楽しみました。

私はこれまで岩船岳に登ったことがなく、それだけにこの度の計画を心待ちにしていました。船から初めて見る御床浦や須屋浦などの海岸線や仰ぎ見る岩船岳や御床山の姿に、これまで慣れ親しんだ宮島の景色とは異なり、豊かな自然が随所に存在することを実感しました。

船を下りて登山口から約 30 分、腰の高さ以上に生い茂るコシダをかき分けて御床山に向かう途中で、不思議な空間に出会いました。それは、島の南端にある山白山を中心にして、右手には可部島、その奥に大竹の工業地帯や岩国の市街地。左手には山白浦にかけての原



御床山に向かう山頂から山白山方面を望む

生林と穏やかな安芸灘、そして雲間から微かに見える島々です。この空間は、右は人の手が入った「人間界」、左は手付かずの「自然界」そのものであり、山白山を境として、あたかも自然界が人間界とせめぎ合いをしているかのように感じると同時に、現在の弥山の危ぶまれる姿を思い起こしました。

それは、これまでの弥山やこの度の岩船岳登山で散見した、むやみに折られたり、切られたりした木の枝や、不自然に作られた山道

の姿であり、もし、これらが自然保護や保全の観点からではなく、他の目的で行われたものであれば、宮島のかげがいのない宝である原始林が今まさに人間に侵犯されている現状そのものです。



岩船岳山頂にて(撮影：佐藤(佐))

ところで、人間界には「自然体」という言葉があります。この言葉は、人間がありのままの姿で生きる時に賞賛の意をもって使われる言葉でもあります。当然のこととして、宮島のシカもサルもトンボも、サクラもモミジもツツジも、長い長い時空間を、人間以上に賞賛に値する「自然体」で生き続けてきたことでしょう。

この度の登山は、山のあちらこちらから、「これからも永遠に、何も加えず、何も引かず、全てありのままの姿で生き続けたい」という自然の声を痛いほど強く感じた登山でした。

あての木浦からの行程は、9 : 25 にあての木浦登山口を出発。途中、厳島聴測照射所跡を見学 (10 : 13 ~ 10 : 20) 後、11 : 18 に岩船岳山頂 (標高 : 466.6m) に到着。昼食後、11 : 50 に出発。大川別れ (12 : 33) 、青海苔別れ (13 : 15) を経て、13 : 47 に多々良登山道入口 (三ツ丸子側) 、14 : 40 に大元公園に到着。

岩船岳山頂で昼食をとった頃から小雨が降り始め、多々良登山道入口に下山した頃には本降りの雨となりましたが、参加者全員無事に行程を消化することが出来ました。

ちなみに、北野さんのGPSによると、あての木浦から大元公園まで測定距離は約 12 km、所要時間は 5 時間 15 分でした。

(宮本 雄介)

宮島二流記

(その15)

平田広三郎

Q15:「聖(ひじり)崎のいわれとはどのようなものでしょうか?」

聖崎とは宮島の北東にある岬のことです。それではなぜ「聖(ひじり)」と名付けられたのか探ってみます。

A15:「宮島の歴史の一端を解らせてくれるようです。」

聖(ひじり)と言えば、作家・泉 鏡花(明治6~昭和14:1873~1939)の小説「高野聖(1900作)」を思いだされるでしょう。

「聖」の語源は、原始宗教者の「日知り(日を知る)」「(民俗学者:柳田國男提唱)と言われていますが、参考文献の著者:五来 重(仏教民俗学者)は火を管理する(治る:しる・治ろしめす)と言う意味で、「火治(しり)」であるという説を唱えています。

「火治り」とはどのようなものでしょうか。「古事記」の景行天皇(神話時代の12代)条に日本武尊(やまとたけるのみこと)が、「新治(にひはり)筑波をすぎて、幾夜か宿(ね)つる」と日数を尋ねたのに対して、「かかなべて、夜には九夜 日には十日を」と答えたのは「御火焼(おひたき)の老人(おきな)」で、神聖な火を管理する宗教者が日を数え、日の吉凶を知っていたからです。この「御火焼の老人」は原始宗教者であるとともに部族国家の首長でもあったのです。この意味から祭政一致の主催者である天皇が聖帝(ひじりみかど)と呼ばれたのは当然で、「ひじり」はきわめて原始的な宗教者一般の名称だったようです。

➤ のような宗教者には、呪力を身に着けるための山林修行と身のけがれをはらうための苦行があります。そしてこの宗教者たちは、山林に隠遁する聖の隠遁性、苦修錬行の苦行性、死後の霊魂は永遠の旅路を続けると考え生前に果たす巡礼が遊行性(廻国性)、隠遁と苦行と遊行によって得られた呪験力は予言・治病・鎮魂に用いられる呪術性、一年の何か月は山伏としての夏行(げぎょう)や入峰修行を行うがそれ以外は妻帯や生産などを行う俗聖と呼ばれる世俗性、集団

をなして作善(さぜん:宗教的善行)を行う集団性、寺や仏像を作るための仏教化した聖の働きを示す勸進性(喜捨をうけること)、勸進の手段としての説教・祭文・などの語り物と絵解き、踊念仏や念仏狂言などの唱導を行う唱導性の八つの性格を持つものとされています。これらの性格は同時に併せ持つということではなく、仏教との関わり具合や国家の宗教政策によって絶えず変化していたのです。

一方 火を焚くということの目的は、聖なる火を焚くことでそこへ神や霊を招き寄せる(いわゆる龍灯伝説や不滅の火)ことなのですが、二次的には航海の目印になり、灯台の役目をするのです。

例えば 島根半島の西の日御碕、東の端の美保関はどちらも聖なる火を焚く場所です。特に日御碕が「火の岬」で今の灯台の立つ岩が火焚岩であったという日之御崎神社神官の伝承や大山の火と隠岐の西ノ島の焼火(たくひ)山との関係もそうです。

それでは宮島の場合はどうかと言いますと、海から望見できる聖火のもとである「龍灯伝説」や求聞持堂の「消えずの火」が焚かれたことから、宮島も辺路(遍路)修行(陸路の七浦廻り)の一つの聖地であり、辺路と聖火と求聞持法のつながりが感じられます。そうであれば「聖崎」は修験者や求聞持法の修行僧が求聞持堂から降りてきて火を焚いた場所として「聖」の名前がついたものでしょう。

最後に「高野聖」とは、平安末から高野山が密教の学問をもっぱらとする学僧(学侶)と、修験的苦行によって武力を蓄えた行人(山伏)と勸進をつかさどる「聖」との三方に分れたものの一つなのです。小説に出てくる志操堅固な高野聖や墮落した高野聖もいたことも事実ですが、仏教を理論や貴族のためでなく、信仰から庶民に広げた行基や一遍上人などの遊行聖の存在も決して無視出来るものではありません。

次回 Q16 は「管絃祭の御座船はなぜ宮島と地御前を往復するのでしょうか?」です。

参考文献

*「高野聖」五来 重 角川ソフィア文庫
平成23年

*「空海の足跡」五来 重 角川選書
平成6年

鷹ノ巣高砲台跡 の 清 掃 ・ 整 備

日 時：5月18日(土) 9:00~13:30

参加者：岩崎 川崎 黒木 小林(嗣) 佐伯

佐藤(佐) 佐藤(庸) 渋谷 末原 兎谷 中道

錦織 檜和田 六重部 柴原自然保護官

さわやかな五月晴れの日、ちょうど1年ぶりの鷹ノ巣高砲台跡の清掃・整備になりました。草刈機でシダを刈ったり、落ち葉を掃き集めたりと、全員が黙々と精力的に作業を行った結果、昼前にはすっかりきれいになりました。



砲座周囲のシダ刈り

末原さんのお手製の鹿児島県の郷土菓子「いこもち」もごちそうになりいい汗を流しました。

(川崎 昭壽)

6月の花 カギカズラ

鷹ノ巣自然歩道を歩いていると道路から手の届く所に、絶滅危惧種に指定されている南方系の植物「カギカズラ（アカネ科）」が樹木の枝に巻付いています。



名前は、葉の付け根に鉤が付いていることから名付けられたものです。この鉤は枝が変化したもので、面白いことに一個の鉤が付いているとその次は二個、その次は一個というように規則正しく交互に付いています。

花は2cmぐらい、手毬によく似ています。六月中旬頃咲き、満開の期間が短いので植物学者でも余り見ることができない程の貴重な植物です。

広大の関太郎名誉教授は、1983年旧宮島町教育委員会が発行した「宮島の植物」の中でカギカズラは6月の花と定めています。

(中道 勉)

‘12 秋～冬の活動での雑詠十句

黒木 隆信

● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

再建の弥山仁王門秋たける
身にしむや砲台跡の赤煉瓦
日に透けし三つ葉に隠れ通草の実
極寒の弥山に迷ふ女かな
登り来るブーツ女や冬山路
古き良き展望台の掃納
風花や岩壁盾にとる昼餉
着ぶくれてうどんを啜る展望台
六熊のまろき足跡這ふ岩根
手をかざし名残りを惜しむ冬の滝

◇ 編集後記 ◇

「地域の人が好きにならなければ自然は守れない」(湿原学者、故辻井達一北大教授)。

公募観察会などを通じて宮島を好きになる人をもっともっと増やしていくことが宮島の自然を守ることにつながるのだろう。(川崎)

瀬戸内海国立公園

宮島地区パークボランティアの会

事務局：環境省 中国四国地方

環境事務所 広島事務所

(〒730-0012)

広島市中区八丁堀 6 番 30 号

広島合同庁舎 3 号館 1 階

TEL082-223-7450、FAX082-211-0455